

アンケート用紙(病院用)

本調査への回答に同意する 本調査への回答に同意しない

病院の所在地(〒)

問1. 設置主体

以下のうち、貴院の設置主体に該当するものに□を付けてください。

- 厚生労働省 独立行政法人国立病院機構 国立大学法人
- 独立行政法人労働者健康安全機構 国立高度専門医療研究センター
- 独立行政法人地域医療機能推進機構 その他(国)
- 都道府県 市町村 地方独立行政法人 日本赤十字社 済生会
- 北海道社会事業協会 厚生連 国民健康保険団体連合会
- 健康保険組合及びその連合会 共済組合及びその連合会
- 国民健康保険組合 公益法人 医療法人 私立学校法人 社会福祉法人
- 医療生協 会社 その他の法人 個人

問2. 病床数と看護職員数

定義

- **稼働病床数**: 過去1年間に最も多くの入院患者を収容した時点で、実際に使用した病床数。
- **常勤者**: 貴院の就業規則で定められた所定の勤務時間すべてを勤務している看護職員(看護師、准看護師、保健師、助産師)。
- **非常勤者**: 貴院の就業規則で定められた所定の勤務時間よりも短い時間で勤務している看護職員(看護師、准看護師、保健師、助産師)。パートタイム職員、臨時職員、週の勤務時間が32時間未満の短時間勤務制度の利用者などが該当します。
- **常勤換算値**: 全ての看護職員(常勤者・非常勤者を含む)の実際の勤務時間を、常勤者1人あたりの所定勤務時間で割って算出した数値。貴院全体でどれだけの労働力(総勤務時間量)が投入されているかを示す指標です。

問2.1 貴院の基本情報について

2025年度の病床機能報告制度で報告した数や回答を記載してください。

1)病床数

病床種別	許可病床数	最大使用病床数	最小使用病床数	休棟中 (今後再開予定)	休棟中 (今後廃止予定)
一般病床					
療養病床					
上記のうち医療療養病床					
上記のうち介護療養病床					

	許可病床数	最大使用病床数	最小使用病床数
高度急性期病床			
急性期病床			
回復期病床			
慢性期病床			

2)DPC 群の種類:以下のいずれかを選択してください。

- 大学病院本群 DPC 特定病院群 DPC 標準病院群 DPC 病院ではない

3)承認の有無:特定機能病院の有無: 有 無

4)診療報酬の届け出の有無

① 総合入院体制加算の届け出の有無:

- 総合入院体制加算 1 の届出有り 総合入院体制加算 2 の届出有り
 総合入院体制加算 3 の届出有り 届出無し

② 急性期充実体制加算の届出の有無: 有 無

③ 精神科充実体制加算の届出の有無: 有 無

④ 在宅療養支援病院の届出の有無: 有 無

⑤ 在宅療養後方支援病院の届出の有無: 有 無

5)2025 年 7 月(1 か月間)の手術件数 計 [] 件

* 手術室で行われた K920(輸血)以外の手術(K コードに限る)の件数。ただし、複数術野の手術等、1 手術で複数の K コードを持つ場合も合わせて 1 件とします。算出は、医事算定を用いてください。

6)2025 年 7 月(1 か月間)の全身麻酔の手術件数 計 [] 件

7)2025 年 7 月(1 か月間)の延べ外来患者数 計 [] 人

問 2.2 施設全体の看護職員数について(2025 年 7 月 1 日現在)

1) 病棟部門の看護職員数を教えてください。

	常勤者 (合計実人数)	非常勤者 (合計実人数)	常勤換算値 (常勤者と非常勤者の常勤換算値の合計)
看護師			
助産師			
准看護師			

2) 外来部門の看護職員数を教えてください。

* 保健師として外来で働いている場合、看護師に含めてください。

	常勤者 (合計実人数)	非常勤者 (合計実人数)	常勤換算値 (常勤者と非常勤者の常勤換算値の合計)
看護師			
助産師			
准看護師			

3) 手術部門の看護職員数を教えてください。

	常勤者 (合計実人数)	非常勤者 (合計実人数)	常勤換算値 (常勤者と非常勤者の常勤換算値の合計)
看護師			
助産師			
准看護師			

4) その他の看護職員数について教えてください。(2025 年 7 月 1 日現在)

* 患者を受け持たない看護管理者、病棟・手術室・外来に属さない認定・専門・特定行為研修修了者・NP などになります。

	常勤者 (合計実人数)	非常勤者 (合計実人数)	常勤換算値 (常勤者と非常勤者の常勤換算値の合計)
看護師			
助産師			
准看護師			

問 2.3

1) 法律で定められた短時間勤務制度の利用状況

2024 年度(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)の 1 年間に、「育児・介護休業法に基づく短時間勤務制度」を利用した看護職員の実人数をお答えください。

(※年度中に一度でも利用していれば「1 人」とカウントしてください。延べ人数ではありません。)

1. 育児短時間勤務 …… □□ 人
2. 介護短時間勤務 …… □□ 人

※複数制度を利用した職員がいる場合は、重複しないよう 1 名として計上してください。

2)病院独自で導入している短時間勤務制度の有無

次のうち、当てはまるものを選択してください。

- 病院独自の短時間勤務制度がある 病院独自の短時間勤務制度はない

3)病院独自の短時間勤務制度の利用人数

(※問 2.3 3)で「ある」と回答した場合のみ)

2024 年度(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)の 1 年間に、

病院独自の短時間勤務制度を利用した看護職員の実人数をお答えください。

- 病院独自短時間勤務制度の利用者数 …… □□ 人
(※年度中に一度でも利用していれば 1 人とカウント)

4)短時間勤務者の勤務時間

2024 年度に短時間勤務制度(法律・病院独自の双方を含む)を利用した看護職員について、

年度中の「主たる勤務時間」に最も近い区分の人数をお答えください。

- 週 30 時間未満 □□ 人
- 週 30～34 時間未満 □□ 人
- 週 34～37 時間未満 □□ 人

問3. 貴院の常勤の看護職員の労働状況について

1)貴院の就業規則などに記載された、休憩時間を除く所定労働時間(1 週間)をお答えください。

週 [] 時間

2)2024 年度(2024 年 4 月～2025 年 3 月)の 1 年間における、常勤の看護職員の月ごとの時間外勤務の平均時間をお答えください。

月 [] 時間

3) 2024 年度(2024 年 4 月～2025 年 3 月)の 1 年間において、常勤の看護職員が取得できた年間休日総数は、平均日数をお答えください。年間 [] 日

本調査における休日の定義

・含める休日：週休日（シフト制における非勤務日を含む）、国民の祝日、年次有給休暇、夏季休暇・年末年始休暇などの特別休暇、慶弔休暇・リフレッシュ休暇などの特別休暇、代休・振替休日、その他、勤務を要しない日（生理休暇など）

・含めない休日：育児休業、介護休業、病気休職（長期）などの長期休暇、病欠（短期の欠勤）＊ 半日単位で取得した休暇は、2 回で 1 日と換算してください。

4) 貴院において、常勤の看護職員で、以下の制度を利用した実人員数を教えてください。

（2024 年度：2024 年 4 月～2025 年 3 月）

夜勤免除制度の利用人数： [] 人

育児休業を取得した看護職員の人数： [] 人

介護休業を取得した看護職員の人数： [] 人

病気等を理由に休職している看護職員の人数： [] 人

問4. 貴院の看護職員における夜勤体制について

「夜勤 72 時間ルール適用（入院基本料算定部署・病棟、ただし療養病棟入院基本料は除外）」と
「夜勤 72 時間ルール適用外（特定入院料算定部署・病棟）」のそれぞれにおいて、「夜勤専従者」と「夜勤専従以外の夜勤可能者」別に、以下についてお答えください（2025 年 7 月時点の実人員数、および 2025 年 7 月 1 か月間の平均）。

- 夜勤が可能な看護職員の実人員数
- 月平均夜勤拘束時間（休憩・仮眠の時間を含める）
- 月平均夜勤実働時間（休憩・仮眠の時間を除外する）

※夜勤は、労働基準法の深夜労働時間帯（午後 10 時～午前 5 時）を含む勤務とします。

入院基本料（夜勤72時間ルール適用）	特定入院料（夜勤72時間ルール適用外）	
A 1 0 0 一般病棟入院基本料	A 3 0 0 救命救急入院料	A 3 0 8 - 3 地域包括ケア病棟入院料
A 1 0 2 結核病棟入院基本料	A 3 0 1 特定集中治療室管理料	A 3 0 9 特殊疾患病棟入院料
A 1 0 3 精神病棟入院基本料	A 3 0 1 - 2 ハイケアユニット入院医療管理料	A 3 1 0 緩和ケア病棟入院料
A 1 0 4 特定機能病院入院基本料	A 3 0 1 - 3 脳卒中ケアユニット入院医療管理料	A 3 1 1 精神科救急急性期医療入院料
A 1 0 5 専門病院入院基本料	A 3 0 1 - 4 小児特定集中治療室管理料	A 3 1 1 - 2 精神科急性期治療病棟入院料
A 1 0 6 障害者施設等入院基本料	A 3 0 2 新生児特定集中治療室管理料	A 3 1 1 - 3 精神科救急・合併症入院料
	A 3 0 3 総合周産期特定集中治療室管理料	A 3 1 1 - 4 児童・思春期精神科入院医療管理料
	A 3 0 3 - 2 新生児治療回復室入院医療管理料	A 3 1 2 精神療養病棟入院料
	A 304 地域包括医療病棟入院料	A 3 1 4 認知症治療病棟入院料
	A 3 0 5 一類感染症患者入院医療管理料	A 3 1 7 特定一般病棟入院料
	A 3 0 6 特殊疾患入院医療管理料	A 3 1 8 地域移行機能強化病棟入院料
	A 3 0 7 小児入院医療管理料	A 3 1 9 特定機能病院リハビリテーション病棟入院料
	A 3 0 8 回復期リハビリテーション病棟入院料	

4-1. 夜勤 72 時間ルール適用対象病棟・部署に関する設問

	実人員数	月平均夜勤拘束時間 (休憩・仮眠時間を含める)	月平均夜勤実働時間(休憩・仮眠の時間を除外する)
A. 夜勤専従者(*72時間ルール適用外)	常勤者: 人		
	非常勤者: 人		
B. 上記A以外の夜勤可能者	常勤者: 人		
	非常勤者: 人		

4-2. 夜勤 72 時間ルール非適用対象病棟・部署に関する設問

	実人員数	月平均夜勤拘束時間 (休憩・仮眠時間を含める)	月平均夜勤実働時間(休憩・仮眠の時間を除外する)
C. 夜勤専従者	常勤者: 人		
	非常勤者: 人		
D. 上記 C 以外の夜勤可能者	常勤者: 人		
	非常勤者: 人		

4-3. 2025 年 7 月 1 日時点における夜勤形態を教えてください。

3交代制(変則含む) 2交代制(変則含む) 3交代制と2交代制のミックス その他()

問5. 働き方改革と必要人員に関する貴院の見込みについて、お聞かせください。

・以下の働き方改善の項目について、貴院の達成状況、また、未達成の場合には、その改善項目を実現するに際して、必要となる看護職員の常勤換算値における増減割合を教えてください。

●達成状況の選択肢：達成状況の基準を踏まえて、以下から選択してくださいを選択してください。

(1) 達成済み (2) 未達成 (3) 該当なし(3交代夜勤、2交代夜勤で回答できない場合)

●A①、B①～⑯では、業務未達成の場合、達成のために必要と考えられる人員の増員数(常勤換算値)をご記入ください。

●C①では、業務達成の場合、削減できたと思われる人員数(常勤換算値)をご記入ください。

●A①、B①～⑯、C①において、変化がない場合には「0」、わからない場合には、未記入のままで構いません。

●選択理由や懸念点等がある場合には、ご自由に記載ください。

		達成状況	未達成の場合の増減人数 (常勤換算値)	理由、ご意見（選択理由、懸念等）
A. 労働時間短縮				
①月あたりの時間外勤務を平均10時間以内に抑制	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
B. 勤務シフト・体制の改善				
①11時間以上の勤務間隔の確保	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
②勤務拘束時間を13時間以内に抑制	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
③正循環の交代周期の確保（3交代または変則3交代のみ）	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
④夜勤の連続回数が2連続（2回）まで	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑤曆日の休日の確保	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑥早出・遅出等の柔軟な勤務体制の工夫	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑦夜間を含めた各部署の業務量の把握・調整するシステムの構築	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑧看護補助業務に従事する看護補助者の業務のうち、5割以上が療養生活上の世話	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑨みなし看護補助者を除いた看護補助者比率5割以上	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑩看護補助者の夜間配置	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑪夜間院内保育所の設置と夜勤従事者の利用実績	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑫勤務後の曆日の休日の確保（2交代の場合）、夜勤後の曆日の休日の確保（3交代の場合）	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑬仮眠2時間を中心とした休憩時間の確保（2交代夜勤の病棟がある場合のみ）	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
⑭16時間未満となる夜勤時間の設定（2交代夜勤の病棟がある場合のみ）	→	選択してください▼	□ 人（増員）	□
C. 業務効率化				
①ICT、AI、IoT等の活用による業務負担軽減	→	選択してください▼	□ 人（減員）	□

* ICT・AI・IoT 等の活用による業務負担の軽減とは、記録・報告・集計などの業務時間が削減された（例：入力時間や定型作業時間の短縮が確認できた。）、現場のオペレーションが改善し、業務の重複や無駄が減少したなど、業務負担の軽減に資する取組を指します。これらの取組により、看護職員が総合的に見て効果が認められると評価している場合には、「達成」を選択してください。

—ICT(Information and Communication Technology)：コンピュータや通信技術を活用して、情報の収集・共有・管理を効率化する技術。例：電子カルテ、看護支援システム、オンライン会議など

—AI(Artificial Intelligence)：人間の知的活動を模倣して、判断や予測、文章作成などを行う技術。例：音声入力、画像解析、記録作成支援

—IoT(Internet of Things)：モノがインターネットを通じて相互にデータをやり取りする仕組み。例：バーチャル自動転送、離床センサー、ナースコール連携など

問6. ICT(情報通信技術)導入状況

現在、貴施設で導入している ICT・AI・IoT の種類についてお答えください(複数回答)。

ICT・AI・IoT の導入実績がない場合には、最後の「⑨ICT 導入実績なし」を選択してください。

① 患者安全・リスク管理

- 転倒転落予測システム(リスク判定自動化・インシデント減少)
- 見守りセンサー(覚醒状況の把握)
- 見守りカメラ(病室の状況確認)
- バイタルサイン自動転送(モニタから電子カルテへ)
- ベッドコントロールのシステム化(離床検知・ポジショニング)

② 記録・情報管理・効率化

- 電子カルテ(看護記録・看護計画・経過記録)
- 電子カルテの音声入力支援
- モバイル端末の撮影データを電子カルテに取り込む
- 退院時サマリー自動生成
- 双方向ホワイトボード(患者状態の一元化)

③ 投薬・物品・機器管理

- 投薬オーダー連携／バーコード与薬確認
- 減菌管理システム(GS1 コードによる物品識別)
- 物品搬送ロボット
- マセレーター(排泄物処理軽減)

④ コミュニケーション・情報共有

- 看護師間の情報連携システム(無線通信による効率化)
- 医療職種間の情報連携 SNS(Teams 等)
- デジタルナースコール(要件を選択可能)

⑤ 患者参加・サービス支援

- 患者からの AI 問診(予診票の電子化)
- 患者動画説明(説明時間短縮・理解度向上)
- 患者ポータル(検査予定・服薬情報・入院生活支援)

⑥ 教育・業務改善

- e ラーニング／VR・AR シミュレーション
- AI を活用した看護計画支援・臨床意思決定支援
- データ分析ダッシュボード(看護必要度・業務量・労務管理)

⑦ 看護管理

- 勤怠管理システム
- シフト作成・勤務表自動作成システム

⑧ その他

- 上記にない場合、その他()

⑨ICT 導入実績なし

- ICTを導入していない

問7. ICT導入による業務時間削減効果

設問6でICTを既に導入している場合、総合的にみて、日常業務にかかる時間は、どの程度削減されたと感じますか？

- 大きな改善効果を感じる：業務時間が大幅に短縮され、効率が劇的に向上した。
- ある程度の改善効果を感じる：業務時間にある程度の短縮効果があり、効率が改善された。
- あまり改善効果を感じない：導入前と比べて、業務時間の変化はほとんどない。
- 改善効果はない：業務時間の短縮には全く貢献しなかった。
- 逆に悪影響を感じる：導入前よりも業務時間が増加するなど、かえって非効率になった。
- 判断できない/わからない：導入効果について、まだ十分に把握できていない。
- その他(自由記述)

問8. 職員の需要推計についての意見等

ご意見がございましたら、ご記載ください。(任意・自由記載)

【ヒアリング調査へのご協力について】

本アンケートの内容をもとに、より詳しくお話を伺うためのヒアリング調査（インタビュー）を予定しております。ご協力いただける場合には、以下をご記入ください。

病院名: _____

ご所属・役職: _____

ご担当者名: _____

ご連絡先（メールアドレス）: _____

※記載いただいた情報は、ヒアリングの依頼および連絡以外の目的には使用いたしません。

※必ずしもすべての方にインタビューをお願いするものではありません。インタビューをお願いする場合のみ、後日、個別にご連絡いたします。